

小諸市で起きる 交通事故の傾向

小 諸市内で起きた道路上の人身事故は今年に入って94件発生（1／1～8／23現在）。

その約4割が国道18号線と国道141号線で起きています。その事故の特徴として、約7割が「追突」や「出合い頭」によるもの。

運転者の前方不注意や安全不確認などが事故を起こす原因として捉えています。

また、注目すべき点として、物件事故では道路以外の場所でも多くの事故が起きています。それは駐車場です。コンビニやスーパーマーケットのように、広い駐車場では多方向から車が通行します。買い物や済ませ、車に乗り、動き出すまでのわずかの時間で、周りの状況が変化しているのが駐車場の特徴です。その変化に気づけず、ぶつけてしまったなどということが多く存在します。注意すべきこ

とは、常に周りの状況は変化していることを認識することです。

小諸のまちは、坂が多くスピードが出やすい。そして、通学路も多い。しかしながら、児童が巻き込まれる大きな事故はほとんど発生していない現状にあります。

小諸市は、市が中心になって交通安全への取り組みをしています。これが珍しいと思っています。

これまでに、長野県内で過去に悲惨な事故を見てきました。「飲酒運転による事故」「子どもが巻き込まれた事故」「居眠り運転による事故」。このどれもが死亡事故に至っています。痛ましい事故として記憶に残っています。

こうした事故が発生しないよう、小諸市の皆さんが持っている安全意識の水準をさらに高めて、事故の無いまちにしていきたいでしょう。



長野県小諸警察署 交通課長
薄井 透 さん

地域の要望を聞く



それぞれの 団体が連携して 安全を確保する

小 諸市では、通学路に関わるさまざまな関係者（警察、道路管理者を含めた10団体以上）が、子どもたちの安全を確保するために活動しています。

市内小中学校ごと、学校安全協議会やPTAの見回り等により確認された課題を中心に関係者が集まり合同点検を行っています。対策が必要と判断された箇所では、グリーンベルトなどのハード対策や交通規制及び交通安全教室などのソフト対策を講じています。

関係者での連携のもと、通学路の安全確保をすすめています。